

大鹿村議会だより

第18号 平成29年1月16日 発行：大鹿村議会 TEL：0265-39-2001

新しい年を迎えて

大鹿村議会議長 熊谷 英俊

新年、明けましておめでとうございます。旧年中は当議会の活動に対し、ご理解とご協力、また貴重なご意見を賜りありがとうございました。

この一年が村民の皆様にとりまして幸多き年でありますよう、また一人ひとりがご健勝で、ますますご活躍されますよう、お祈り申し上げます。

さて、昨年十月二十一日、本村にとって当面の最も大きな課題であるリニア事業について、当議会は工事着手に同意する決定をいたしました。

これまで二年ほどかけて、リニア対策委員会等を通じて、リニア事業が本村に及ぼす影響を低減するための協議を行ってきました。またその間、議会として国土交通省鉄道局や県、JR東海に対し提言・要望活動を行ったり、議会報告会等で村民の皆様からご意見を伺うなどしてきましたが、十月十四日の住民説明会、十九日の村とJR東海との「工事用車両通行等に関する確

認書」締結をもって、協議による事前の条件はほぼ出尽くし、村への影響低減は担保されたとの判断から、工事着手は妥当とする議員が過半数を占め、



もちろん全会一致ではありませんでしたが、採決により同意するとの結論に至りました。

今後は引き続き大鹿村リニア連絡協議会を通じて、確認書の合意事項が守られ、本村への影響低減が図られるようしっかりとチェックし、また追加の影響低減策や条例整備等の必要性についても研究し、対応すべきことには積極的に取り組んでまいります。またリニア事業の負の面だけでなく、リニアを村づくりにどう活かすかということについても議論を進めたいと考えます。

村民の皆様におかれましては、賛否の枠を超え、全村が一つになってリニアという大きな課題に対峙していけますよう、ご協力をお願いいたします。

このほかにも本村の将来を大きく左右する事業として「道の駅」整備事業や、南信州広域連合の事業ではあります。本村にも今後の費用負担が見込まれる「知の拠点」整備事業などにも、議会としてしっかりと注目し、本村にとって有益なものとなるよう議論を深めていきたいと考えています。もちろん議会報告会等を通じ、村民の皆様からのご意見を伺いながら進めてまいりますので、これまで同様よろしくお願ひ申し上げます。

平成28年12月

大鹿村議会12月定例会

平成二十八年十二月大鹿村議会定例会が十二月九日から十六日までの八日間の会期で開会されました。今定例会に提案された議案等は、報告一件、付議事件十件、議員発議一件で、すべて原案どおり可決・承認されました。

報 告

報告第一号 平成二十八年度定期監査報告について

付議事件

議案第一号 議会の議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第二号 大鹿村特別職の職員で常勤の者の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定について

議案第三号 一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定について

▼国の法改正、人事院勧告により期末手当などを引き上げるものです。

議案第四号 平成二十八年度大鹿村一般会計補正予算（第四号）について

▼南信州広域連合で進める「知の拠点」整備の村負担分五二〇〇万円、「道の駅」の詳細設計・監理委託料二二六八万円などです。

議案第五号 平成二十八年度大鹿村民健康保険特別会計補正予算（第三号）について

議案第六号 平成二十八年度大鹿村立診療所特別会計補正予算（第三号）について

議案第七号 平成二十八年度大鹿村営水道特別会計補正予算（第三号）について

議案第八号 平成二十八年度大鹿村介護保険特別会計補正予算（第三号）について

議案第九号 平成二十八年度大鹿村後期高齢者医療特別会計補正予算（第二号）について

議案第十号 建設工事変更請負契約の

締結について

▼このほど完成した介護予防施設等増改築工事の増額によるものです。

議員発議

発議第一号 地方議会議員の厚生年金制度への加入を求める意見書の提出について

一般質問

○東村邦子議員



*「道の駅」の展望と検討委員会のあり方

【質問】

この十月二十六日に道の駅検討委員会が立ち上げられ、特産品直売所、飲食施設、農産物加工直売所など観光客対象の外向きの顔だけでなく、村民の暮らしを支える商業施設などを併設する多様な機能を発揮する計画が立てられ、期待感が持てる。村長のこの道の駅に対するお考え、心づもり、思いをお聞かせ願いたい。

【村長】

おっしゃるとおり、外向きだけでなく、村民の暮らしに大きくかか

わる施設として目指していきたい考えです。冒頭の挨拶で申し上げたように、積極的に前を向いて進めていきたいと考えています。

【質問】

今年国土交通省が行った道の駅住民サービス部門モデルの認定結果を見てみると、多機能で大がかりな施設が運営されている。将来の方向性として参考にしつつ、大鹿村の身の丈に合った規模で、まず第一歩を踏み出すのが堅実な方法ではないかと考える。

検討委員会も施設の建物のイメージなど器を検討しているのではなく、商工会の関係者と道の駅の運営主体で営業内容の基本方針を決めていくことが先決ではないかと考える。地方創生交付金の申請に間に合わせて、年度末に計画を固めるつもりであるならば、地元商店との検討が春から続けられていて、この道の駅の運営主体に名乗りを挙げているところもあるわけで、運営、事業内容を詰めていくギリギリの時期ではないかと考える。

今定例会でも道の駅の調査、設計、監理委託料が盛られているが、検討委員会の検討内容を早く切り替えて、運営準備に突入しなければならぬと思うが、村長のお考えはどのようなになっているか。

【村長】

施設の考え方については、全体

的には議員のおっしゃるとおり複合的な、多くの方が活用できるものを目指していきたいと考えています。また、村としても、先般の委員会では指摘のような運営についての考え方について今後話し合っていくと報告を受けているので、今後はそちらが主体になっていくのではないかと考えています。もちろん施設の形、規模等についても、そちらの今後の運営を目指される皆さん方の意見は非常に重要なので、今後はそういう方向での話し合いがメインになっていくと思っています。

質問 村の暮らしは村の住民で協力しあって作っていく。今やれることをやって、近い将来、そしてその先につなげていく、村の拠点、寄り合いどころとして進めていこうというプラスの機運が出てきている。

行政へのお願いは、暮らしの拠点への交通手段の確保だ。買い物や食事、お茶やおしゃべりをする、寄り合って昔懐かしい顔で集う、そういう往来を考えていただきたい。現在の診療所往復の送迎バスにとどまるだけでなく、生き生き暮らすための寄り合い所、大鹿村の村の駅、そして役場や診療所を巡回するバスを早期定着させていたいただきたいと切望する。

村長 東村議員は検討委員会の副委員

長なので、委員会の中で今のような発言をしていただいて、ぜひともいい施設ができるように。交通手段についてはこの後の質問の方でできるだけお話をさせていただきたい。期待に添えるようなものに向かっていくということとだけ申し上げさせていただきます。

○河本明代議員



*福与地区の残土受け入れ反対表明について

質問 松川町生田生東区のリニア残土置き場候補地について、下流の福与地区が受け入れ反対を正式表明した。トンネル掘削前に残土置き場に見通しを示すことを要望した議会の意見書に対して、JRの回答は慎重に手順を踏んで進めている、できるだけ早期に確定できるような努めるといったものだったが、今回の正式な反対表明により残土の行き先は一層不透明になった。

大鹿村でトンネル掘削が開始されて仮置き場に残土が積み上げられてしまった状況で、最終の行き先が決まらなければ、いつまでもそこに置かれたままになってしまふことが懸念される。特

に三正坊の仮置き場計画地については農地法で三年という期限つきで、残土置き場がいつまでも決まらないうと期限内に撤去できないのではないかと不安が拭えない。最終的な発生土の行き先について、ある程度確実な見通しが表示されるまで、トンネルの掘削は始めるべきではないと改めて思うし、最低限、三正坊には仮置きすべきでないと思うが、村長はいかがお考えか。

村長 トンネル工事の成否は残土置き場によって左右されると言われている。端的に言う、置き場が明確にならないければ掘れないと思っています。また、それについては仮置き云々ではなくて、最終的なところが決まらなければ掘れないだろうと私は考えているので、残土置き場の動向については十分注意していく必要があります。松川町とJRの間の今後の対応について、しっかりと注目していく必要があると考えています。

質問 JR東海側は今トンネル施工ヤーの準備工事を始めていて、この先、年明け、あるいは春には斜坑の掘削を始めたという意向が示されていると思うが、一方で、何か月という単位で確定させることは難しいとも言っている。この反対表明によって、何か月という形では見通しも難しいのではない

かと危惧して質問させていただいた。斜坑の掘削も見通しがなければ始めさせないという気持ちと受け取ってよいのか。

村長 残土の置き場がなければ掘れないと思っています。ただ、掘れるようにしていくのが、施工しようとする事業者の責任ではないかと思っています。自分たちで掘りたければ、ちゃんと最後のところをつくる、できなければ掘れないのではないかというのが私の感想だ。ただ、ある程度の置き場が確保できれば、ある程度の所は施工が可能になるのかなという考えを持っているが、それ以上は進めなくなることは考えられます。一か月分あれば一か月分は掘れるけれども、その後は掘れないと私は考えています。これは事業者の最大の責任だと思っています。

質問 大鹿村の仮置き候補地は川沿いの河川敷付近に予定されていて、大水のときに大丈夫なのかということも懸念される。村内の仮置き場計画地や候補地の土砂災害の危険という観点での安全性についても、改めてしっかりと検討していただきたい。

村長 土木技術的にこう置けば安全だというものは、かなり確立されてきていると思っています。それを逸脱したような積み方で計画をしてくることは

ないと思っています。村内に防災対策等しつかりできて安全である場所があれば、今後も村としても置く場所の可能性を考えながら対応していきたいと思っています。とにかく安全は第一だということとは申し上げさせていたきたいと思っています。

＊リニア工事の影響把握のために村独自でも各種データを取っておくべきではないか？

質問 現在リニアの準備工事や関連工事が始まってきている。影響の度合いをきちんと把握するためにも、工事が本格化する前に村として現状のデータをきちんと数値的に持つておくべきではないか。

例えば小洪線の所要時間、実際に何分かけて通行しているか、その際、大型工事車両と何台すれ違ったかというような数値データを村民の協力を得ながらなるべくたくさん集めておいて、今後も継続して測っていくことによって、具体的な数値で議論ができるのではないかと思う。

また、JR東海で行っている事後調査やモニタリングだけでは、計測の頻度、あるいは調査地点に選定されていないなどで不安を拭えない場合に、村や村民が独自でも計測できるような測定機器等、例えば騒音計や、水質に関しては電気伝導度計やPH計等を村で備えておいてはどうか。

村長 車の件では、職員が二名以上出張するような時に記録を取っていければできるのかなと考えています。あくまで例だが、これはやってできないことではないので取り組みをしたいと思っています。

次に測定機器の件ですが、専門的な資料作りとなってくると、それ相応の人と機器の能力が求められます。JR東海で調査している報告と同様のものを村で備えるのはきついのではないかと、また扱う人材などが大きな課題になるのではないかと思っています。

公表された測定値に疑問が生じた場合は、連絡協議会等でJR側、住民側とで数値等の認識を共有して、立ち会いの上再度測ってみるようなことが連絡協の大事な仕事ではないかと考えています。機器の購入についてはお金さえ用意すれば何とかなるかと思うが、将来的にどこまでということもあるし、もし疑義が生じた場合は県や専門機関から借用して比較してみることも考えられます。

幾つかのデータについての集積、ご提案があった。それらについても協議会等で報告等受けた段階で協議していくこ

とが大事ではないかと思っています。

質問 小洪線の所要時間についてはいろいろな時間帯でのデータが欲しいので、役場だけではなくて、いろいろな方に呼びかけて記録を取ってはいいかかと思った。

測定機器の件だが、モニタリング、事後調査の測定結果等がどのような形で公表されるかがまた示されていない。一年間まとめてとか、一か月まとめて報告では、変化が生じてから初めて分かることになってしまいかねない。素人でも扱える簡単な機器等を村で備えておけば、気になったときにすぐ測ることもできるし、調査地点となっていない場所でも、生活用水、農業用水などの水温や水質の変化を独自に測ることも可能になる。ぜひご検討いただきたい。



北川露頭トイレ(大鹿村側から)

○秋山光夫議員



＊北川露頭の新設トイレの決定に伴う問題点

質問 国の天然記念物の北川露頭にトイレが新設された。しかし、なぜあの位置に建てられたのか。何人かに問いかけてみたが、なぜ向こう側に建てないのかという声が非常に多かった。一五二号線を上っていくと、駐車場入り口に小さな建物が見えてくるが、まず目に付くのが太い塩ビ管の先に換気扇が付いた臭気筒だ。本来これらのものは人目に触れない裏側にセットするのが建築の常識だ。露頭案内看板の駐車場を隔てた向こう側にトイレが建っていれば何の問題もなく、使いやすく、美観も損なわないと考える。

また、道路脇の入り口に建っているために見学を終えた車が出る際、下から上ってくる車が見えにくい。

設計の段階で露頭周辺の環境、立地条件を視察して、どこに置いたら最適なのか十分検討が行われたのかどうか非常に疑問を感じている。

近い将来、一五二号線の改良工事も行われるものと思われるが、その際に

あの道路際のトイレは非常に邪魔になると思う。将来に禍根を残さないために解体・移築すべきだと考えるが、どうお考えか。

村長 このトイレについては分杭峠方面から下ってきたときは非常に目に付きやすく、案内看板等必要なく分かりやすい場所にあると思っています。

パイプ類や臭気筒が見えているというところで場所的にどうかということがメインかと思うが、教育長から答弁させていただきます。

教育長 北川露頭のトイレについては今年度七月に建築に着手し、十一月に完成している。他のトイレと同様に大鹿産のカラマツを建築用材に使用し、外観等、景観についても設計段階から配慮したと思っている。トイレの位置についても、天然記念物指定区域内には建設できないので、区域外でなおかつ私有地を除いた村有地であり、利用する方々の利便性を考慮した上で、分かりやすい国道脇に決定しており、見通しについても、それほど見えなくなるとは思っていません。

今後、教育委員会では上蔵福德寺トイレ、安康露頭トイレの整備を計画しています。提言を受け止め、建設の参考とさせていただきたい。

質問 個人個人で見解の相違もあると

思うが、大鹿村では過去にも同様な事例があると思う。例えばビガーハウスの前にあった水車は、せっかく造ったものが解体されて駐車場になってしまった。また、中峰するぎ農園の物見櫓も民地の樹木を少し切れば、落合から鹿塩に向けて物見櫓としての目的が果たせる素晴らしい建物だ。ところが、外壁の下部などかなり腐れが入っており、使われた形跡がほとんどなく、周りには枯れ草が生えて放置されたような状態だ。維持しきれなくなれば、またすぐ解体するというような風潮を感じるが、早急に手入れをして、観光施設として地域活性化の資源になるように努めていただければと思う。

村長 その当時、研究していく中で、それぞれ造ったと考えています。しかしながら、経年劣化と同時に、経済的な変化等も大きく、十年、二十年たつて必要性等の変化もあるかと思う。なので当初の計画と合わない物件が幾つか見られるのかなと常々考えています。

ビガーハウスの水車については、除却した方が将来的にベストだろうというところで除却しました。それぞれの場所の条件等によりしっかり判断して、今ある物については今後修理するか、また除去するかということは考えていかなければいけないと思っています。

○齋藤栄子議員



*高齢者の交通対策

質問 近年、高齢者の自動車事故が増加している。今、大鹿村には七十五歳以上の方が三三一人、そのうち八十歳以上の方が二二一人おられる。中南信免許センターで調べていただいたところ今年六月末で車の免許を持っている七十歳以上の方が一七九人おられるそう。来年三月、七十五歳以上のドライバーが交通違反をした場合、認知症の検査を義務づけることなどを盛り込んだ改正道路交通法が施行されること

が決まり、高齢ドライバーにとって事故を未然に防ぐ対策ではあるが、厳しくなってくる。大鹿村の高齢ドライバーの方が安心して免許を返納し、この村で生活していけるよう、交通弱者の移動手段の充実を村長は今どのようにお考えか。

村長 現在大鹿村では村外へは大鹿・伊那大島間の伊那バスによる廃止代替バスの運行、またNPO法人で運営している「いかまいカー」等があります。村内については週一回だが、全村を回っている患者輸送車の運行があり、これ

らが家用車の運転ができない方々への対策となっています。

対策としては、村内を回るバスと伊那バス等の連携をうまくできるように考えなければいけないと思っているし、商業施設への立ち寄りも時間的にできるような運行ができないかと現在研究を進めているところです。今後さらに研究を深めて、できるだけ早めにうまく運行できる対策を取っていくようになると思っています。

質問 先日、六十代の村民の方からこんな話を聞いた。十二月九日、松川町の日赤病院に行くため、朝七時に家を出たところ、小渋線で一五一台の車と遭ったそう。怖くてよけて止まったりしていたので、日赤病院に着いたのは一時間後の八時だったそう。ちなみにこの日は大型ダンプは一〇台以下だったようだ。この村の高齢者の多くは免許証を返納するのに、外出、特に通院に対しての不安は大きい。村の中で済ませることができ、特に福祉・医療の充実には細心の配慮をいたさき、住民の声を聞き、より細やかで確かな対応を今から検討していただきたい。

村長 おっしゃるとおりです。そんな点も含めて多方面にわたって検討していくことになろうかと思っています。

○北島千良穂議員



＊リニア新幹線の確認書と同意について

質問 十月十七日の午前、ＪＲからの確認書が村へ提示された。翌十八日、全員協議会でこれが示され、討議はあったものの採択された。なぜ十七日の夕方に確認書を議員に配布できなかったのか。わずかに二時間ぐらいでは私には理解できないものがあつた。

また、なぜ審議を公開できなかったのか。臨時議会を開き、確認書の説明をして、質疑、討論、採択とすればよかったのではないか。公の場で議論ができないということは議会軽視、住民軽視と言わざるを得ない。賛否両論あるリニア新幹線は大鹿村にとって重大な問題だ。しかも、十年以上工事が続くことになり、住民の不安は多大だ。村長はこれらのことについて今どう考えているか。

村長 確認書の内容については、村民の方々、議会、村からＪＲに対して要望してきました。主に工事車両の運行に関する事項について、ＪＲ東海が工事説明会等で説明した内容を文書化したものだ」と認識しています。また、それまでの

説明会等の内容は、リニア情報によってお知らせしてきました。さらに十月十四日、議会とＪＲ東海が話し合った結果やその夜の工事説明会の話も反映されていたと考えています。

十五、十六日が休日であり、十七日に最終確認を村の方に提示され、修正等があり、その検討の上、十八日の全員協議会になりました。成文化されたものを事前にお配りすることは不可能だったかと思っているし、内容的にはそれ以前に議会議員、住民の皆様方にも十分とは言えないまでもお知らせはしてきたと考えています。

臨時議会という話だが、今回のことは地方自治法上でも、拡大解釈をしても議決事項ではないと考えています。

質問 この問題は村民も非常に関心ある村を二分するような問題なので、ぜひ公開でやっていただきたい。かなり多くの住民が村に対して不信感を抱いているのではないか。事前に十一月一日の起工式のことを知っていて、それに合わせた形で確認書の締結が行われたのではないかと私は感じた。

村長 結果としてそうだったと言わざるを得ないのが実態です。それなりの手順を踏んできたと思っています。

＊リニア確認書の中で村が先行しなく

てはならない事があるのでは（地権者の交渉等）

質問 一、小渋左岸ルートの用地交渉はどうなっているのか。一、赤石岳公園線の用地交渉はどうなっているのか。一、赤石岳公園線の工事は県が発注して工事をするのか、ＪＲが直接工事をするのか。一、まだ許可の下りない残土仮置き場の用地交渉はどうなっているのか。一、村内に残土で埋め立てをしたいという希望者がいるのか。

村長 小渋川左岸ルートについては、九月の工事説明会においてルートとしてはつきり示されたと認識しています。このルートは環境影響を緩和する対策として大切な件だと考えています。用地の交渉については今後日程等調整する中で徐々に進めていきたいと思っています。

県道赤石岳公園線の用地交渉については確認書に記載はありません。これはＪＲ東海の自営工事として用地の交渉は県およびＪＲ東海が行っていくことになっています。発注は県ではなくＪＲ東海がするというルールになっています。

残土仮置き場の用地交渉についてはＪＲ東海が行うことです。

村内での埋め立て希望者は以前募集した際に出ていて、当時二つ出たが、一つは無理だということで話をしてあり

ます。一件具体的に示されているが、今そこに対しての動きは村もＪＲも全くしていません。口頭での話もあるが、位置やどのくらいという細かな点については、まだ全く明確になっていません。

質問 大鹿村では残土置き場は保安林を解除しないと置くことができないと思う。保安林は一度解除すると、あと危険があっても再び保安林にならないと言われているが、大丈夫か。

赤石岳公園線の用地交渉はＪＲが行うということだが、福德寺周辺についてはまだ全く正規な話がないとも聞いている。それには村はかわつてはいかないのか。

村長 保安林に指定されているものを解除するのは非常に大きな変化があるわけで、なかなか許可になりません。その保安林の指定された趣旨がきちんと守られるか、対策が取られているかというところで解除が認められるわけなので、その後また保安林に指定するようなことはなと思っていますし、対策は取られるということです。

赤石岳公園線の用地関係は、私が伝えているところによると、地権者の方々に概ねの話は取れていると聞いています。きちんと直さないと先へ進めないの、注意して対策を取っていくよう言っています。